

## ESD「持続可能な開発のための教育」は世界で始まっています

### 「ESDの10年」のきっかけ

2002年、南アフリカ・ヨハネスブルグでの世界首脳会議において、日本は、2005年から2014までの10年間を「国連持続可能な開発のための教育の10年」とすることを提案しました。この案は同サミットで賞賛され、国連総会で採択されました。そしてユネスコが主導機関となり、国際実施計画づくりを担うことになりました。現在、これを受けて各国で取り組みが進んでいるところです。

#### 関連ウェブサイト

NPO法人「持続可能な開発のための教育の10年」推進会議(ESD-J)  
URL <http://esd-j.org/> E-mail: [admin@esd-j.org](mailto:admin@esd-j.org)

#### 関係省庁連絡会議

・内閣官房 ・外務省 ・文部科学省 ・環境省 ・内閣府 ・総務省  
・農林水産省 ・経済産業省 ・国土交通省 ・法務省 ・厚生労働省

### 持続可能な開発のための地域の拠点「RCE」\*

\*Regional Centres of Expertise on Education for Sustainable Development

「教育の10年/ESD」の目標を地域レベルで実現するために、国連大学が「RCE(地域の拠点)」を提唱しました。日本では、仙台広域圏(仙台市とその周辺)、横浜地域、岡山地域、北九州地域が認定されています。(2007年2月現在)

RCEとそれらのネットワークにより、ESDの目に見える成果としての、「持続可能な開発に向けたグローバルな学習の場」が構築されることが期待されています。

#### 仙台広域圏の取り組み

- 仙台地域…環境教育、環境学習の推進  
FEEL Sendai(杜の都の市民環境教育・学習推進会議)
- 気仙沼地域…地域連携型環境教育  
気仙沼市立南小学校
- 大崎市田尻地域…持続可能な農業と環境教育
- 宮城教育大学…持続可能な教員養成

#### 【お問い合わせ】

仙台広域圏ESD・RCE運営委員会事務局  
<http://rce.miyakyo-u.ac.jp/>

## EPO東北 [ESD]これからの活動

#### 情報の受発信

ESD推進のために、東北における関係行政機関や市民への周知に努めます。ESDに関する様々な実践情報をできるだけ多く集め、発信していきます。

#### ともに考える場の提供

各地域において地域ミーティングやセミナーなどを開催し、ESDの課題について情報交換や意見交換ができる場をつくっていきます。

#### ESDを支える 仕組みづくりの支援

ESDをテーマに活動を行っている人々や団体がお互いに連携し、地域での動きとなるよう、交流の場づくりを支援します。また、コーディネーターやプロデューサーとなる人材や組織の仕組みづくりに協力します。



【発行】



**EPO TOHOKU**  
東北環境パートナーシップオフィス  
Environmental Partnership Office Tohoku

〒980-0014 宮城県仙台市青葉区本町二丁目5-1  
オークビル5F  
TEL.022-290-7179 FAX.022-290-7181  
E-mail: [info@epo-tohoku.jp](mailto:info@epo-tohoku.jp)  
URL: <http://www.epo-tohoku.jp>  
業務時間: 月～金曜日 10:00～18:00  
休日: 土・日曜日及び祝日、年末年始



# ESDを知っていますか?

## ESDとは

「持続可能な開発のための教育の10年/ Education for Sustainable Development」の略です。よりよい「未来をつくる」ために、環境・人権・平和・ジェンダー・国際協力・多文化共生・福祉など様々なテーマに取り組む教育活動をつなぐ、新しいキーワードです。



どんな教育なの？

### 地球規模の課題から、福祉やまちづくりなど様々なテーマに取り組む「人」を育てます。

これまでの開発・発展は私たちに物質的な豊かさをもたらしてきました。しかし、環境破壊、エネルギー問題、食糧問題など、現在の社会は持続不可能であると言わざるを得ません。将来世代を含む皆が安心して暮らせる社会のために、環境・経済・社会をバランス良く保つ、新しい開発が必要とされています。今の社会のしくみを変革し、持続可能な社会を担うのは「人」です。ESDは、この「人」を育てることが大切である、という考えに基づいています。

対象は？

### 学校だけでなく、地域や社会における私たち一人ひとりがESDの担い手であり、学び手です。

学校においては、これからの社会を創っていく子ども達への教育があります。従来の知識伝達や単なる体験で終わることなく、自分で感じて考える力を育まなければなりません。

しかし、教育といっても対象は子どもだけではありません。現在の社会を支えている大人こそが、社会の課題に目を向け学んでいく必要があります。

ESDというのは、学校、企業、地域住民、行政、NPOなど、あらゆる立場や世代の人々が対象です。「教え」と「学び」が分断することなく、皆がいつしよに学び合う、教育の担い手であり、学び手であるという考え方です。



どうすればいいの？

### 自分達が取り組むべき課題を見つけ、皆で学び、協働して解決していきます。

自分達の地域の課題は何なのか、どんな社会に生きたのか、具体的な課題・問題を解決するために考え、話し合い、行動することが、学ぶことにつながっていきます。これからの新しい取り組みばかりではなく、既実践されているまちづくりや総合学習なども、社会を担う「人」を育ててきたと言えます。

多くの問題は、様々な要素が密接にかかわりあっています。誰かにお任せしてしまうのではなく、行政、NPO、農林漁業者、企業、大学の専門家など、多様な人々がそれ

ぞれの価値観やノウハウを持ち寄り、問題解決や地域づくりに関わることが大切です。

少しずつ「人と人のつながり」を広げていくことが、より良い社会を考えていく上で必要なことです。



## ESD的事例

様々な人たちが話し合う「場」をつくり、多様な分野の人と交流したり、ESDの活動に決まりごとはありません。自分たちの地域に合った方法を考え、ESDに取り組みましょう。

### 【宮城県気仙沼市】 感性と知性を磨く 地球探索型環境教育

気仙沼市では面瀬小学校を中心に、地域を流れる面瀬川や気仙沼港などの豊かな水辺環境を生かしながら環境教育を実施しています。観察や調査、採集、飼育など、直に自然と触れ合う体験活動をベースに、1年から6年までの全学年を通した体系的なプログラムを開発し実践しているところです。

米国の小学校と共同でITを駆使した交流を行うことで、国際的な環境学習を展開しています。自分達のふるさを見つめ、それぞれの地域の真質性や共通性を認識し、国際的感覚・地球環境への視野を育んでいます。その一方で、地域の人々や諸機関と連携し、大学や専門機関も積極的に学習に生かす取り組みも行われています。

また、気仙沼地域は地域連携型環境教育として、国連大学がモデル地区として認定した「持続可能な開発のための地域の拠点(RCE)」



(写真)面瀬川水辺生物調査の一つである「仙台広域圏」のモデル地域となっています。気仙沼市立面瀬小学校: <http://www.k-macs.ne.jp/~omo-s14/>

### 【山形県長井市】 循環型社会をめざす レインボープラン

レインボープランは、市民と行政が全て関わりあう仕組みとして発展してきました。市街地の約5,000世帯の市民が家庭の生ごみを分別し、行政は回収と堆肥化を、農家は有機堆肥を使って農業生産をするという、循環型社会を目指したシステムです。地域の主婦等が中心となり、試行錯誤の末にシステム化されました。

農業、化学肥料を制限して作られた農産物は地域内で販売しています。地場ものをより多く地場の消費にと取り組みが進められており、学校給食に届けたり、NPO法人市民市場の駅構も設立し、販売しています。

これにより、環境保全型農業への一つの流れができた他、まちづくりへの市民参加の促進、環境教育、地域教育への貢献など、多くの成果が出ています。



(写真)生ごみの地区集積所  
また、長井市ではレインボープラン市民ガイドによる視察(有料)もあります。詳細は長井市役所公式サイト(<http://www.city.nagai.yamagata.jp/>)をご覧ください。レインボープラン推進協議会:<http://lavo.jp/rainbow/>

### 【福島県須賀川市】 地球温暖化の防止 廃食油からディーゼル燃料をつくる

須賀川市では、地元企業が商店街や食品スーパー等、地域の住民と連携して、家庭や学校給食等から出た廃食油を回収し、軽油代替のバイオディーゼル燃料(BDF: Bio Diesel Fuel)にリサイクルしています。

自社で独自にバイオディーゼル燃料精製プラントを開発し、それを用いてBDFの製造を行なっています。業務用のディーゼル車をBDF車に切り替えることで、CO2の削減・地球温暖化防止に積極的に貢献しているのです。これからは、地方自治体やNPOの他、長沼ナタネ・ソバ生産組合などとも連携し、菜の花プロジェクトを進めていくところです。

株式会社ひまわり:<http://www.himawari-fukushima.co.jp/>  
※菜の花プロジェクトは、今全国各地の自治体や市民団体によって取り組まれている資源循環サイクルです。休耕田に菜の花を植え、



(写真)廃食油の回収  
菜種を収穫・搾油して菜種油にし、使用した油をBDFへと循環させます。  
菜の花プロジェクトネットワーク:  
<http://www.nanohana.gr.jp/index.php>

# ESDは、持続可能な社会づくりに参画する「人」と「人と人のつながり」を地域全体で共に育む活動です。